

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070401219
法人名	有限会社ツインバード
事業所名	グループホーム「花風」
所在地	伊勢崎市境上湊名968-1 (電 話) 0270-20-2301
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年8月25日

【情報提供票より】(20 年 8 月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人	常勤換算 6.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄鋼系組立構造造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	500円/日
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	又は1日 1,000円		

(4)利用者の概要(8 月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 71 歳	最高 101 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	齊藤内科医院・多賀谷歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの気持ちや生き方を尊敬、尊重し、実際の関わりの中で共に支えあえる関係づくりに努めている。また、協力医と24時間連絡がとれる体制になっていて、夜間往診も対応でき、管理者とも24時間連絡ができる体制がとれているため、本人、家族とも安心している。入居者は担当制となっていて、職員1人が2名の入居者を担当しているが、ケアカンファレンスや月次会議で、全職員がチームとして、入居者の身体状況、精神状況、生活状況等を把握し、ケアしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善点は、改善計画シートを作成し、改善項目に優先順位をつけ改善に向けた計画内容、期間を定め、全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に評価表を渡しそれぞれの職員が記入し、管理者が確認している。ケアカンファレンスや月次会議等で自己評価及び外部評価の意義を説明している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。今までは、在宅時の担当ケアマネジャー、出入りの福祉用具担当者、入居者家族であり、市の職員も毎回違う方の出席であったが、今期より区長、民生委員も参加するようになっていく。ホームの近況報告が中心で、参加者の積極的な意見、要望、質問は少なく、サービスの向上に活かすまでにはなっていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議で意見を求めるなど働きかけを行ったり、苦情箱の設置、外部の苦情受付窓口の連絡先を明記している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩などの外出の機会に挨拶や話しかけをしているが、なかなか地域住民との交流が図られていないのが現状である。管理者と施設長は、老人会会長や民生委員に協力を働きかけたり、地域にチラシを配布しグループホームとは何か等の啓蒙に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまで、「地域の中で一人ひとりを尊重しつつ」ということを頭に入れながら、ケアを行っている。地域密着型サービスとしての理念を、月例会議や毎日の申し送り、ミニカンファレンスで話し合いをもち、職員の意見を聞き管理者がまとめて、「地域と交流をはかりつつ」を理念に加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、共有空間にある掲示板に掲示し、日々確認している。理念に基づいたケアを行いながら、ケアに対する疑問、ケアの仕方でわからないこと、入居者との接し方で困ったこと等があった場合は、ミニカンファレンスや申し送り等で一人ひとりの気持ちや生き方について尊重し、理念にもどり話し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入をしており、区長がホームに訪問してくれたり、区長より地区の祭りや行事の日時を知ることできるようになってきている。老人会からの招待も来るが、現在は参加していないので、今後職員が付き添い支援することを検討している。	○	今後更なる地域または地域住民との交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価表は会議で全職員に配り、それぞれの職員が記入して、管理者が確認し管理者の視点で書き入れまとめている。評価を活かした改善は、改善目標を掲げ職員と話し合っ改善計画シートを作成し、改善に向けて実行している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。最初は、市の職員、担当ケアマネージャー、ホーム出入りの福祉用具担当者、入居者家族、入居者であったが、今年4月以降は、区長、老人会会長、民生委員等地区の役員も出席してくれるようになり、話し合いを行っている。ホームの近況報告が中心で、参加者の意見、要望、質問は少なく、サービスの向上に活かすまでには至っていない。	○	報告や情報交換にとどまらず、参加者から多くの意見をひきだし、サービスの向上に具体的に活かしていけることを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市支所には、事業者の実情を報告し、ケアサービスや介護保険の法律的なことではわからないことがあれば、直接支所窓口に出向いて話をしている。今後、ホーム新聞「花風」を置いてもらうことを検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員1人が2名の入居者を担当していて、毎日の暮らしぶり、健康状態の把握に努めている。担当以外の入居者についても、ケアカンファレンスや月次会議で話し合い、全入居者の把握に努め、家族の面会時には、報告している。必要時は、随時電話をしている。また、月次報告書を郵送し、プランに沿ったサービス提供、健康状態、生活の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に、意見を求める等ホーム側から働きかけをしている。玄関には苦情箱を設置し、外部の苦情窓口の連絡先を明示している。ホームまでの道が狭く木が茂っているので車が入るのに傷がついてしまうので対処できないか等の要望を、検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職する職員は、本人から入居者にやめる理由を話し、理解してもらっている。理解できない入居者は、家族から話してもらうこともある等入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症基礎研修は、ほとんどの職員が受講している。外部から入る研修案内、個人的に希望する研修等があれば希望者には行ってもらおう機会をつくっているが、勤務の関係で行けない現状である。管理者は、研修にいく機会があり、伝達研修もしている。また、月例会議では、テーマを決めて勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームとの交流はあり、情報交換や交換研修などは行っているが、他のグループホームとの交流はない。	○	今後、事業者同士の連携を密にし、相互訪問、事例検討会、見学等により、サービスの質の向上等を目指した積極的な交流を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に気に入っていただくため、本人と家族に事業所を見学してもらうことから始め、職員も自宅を訪問して職員にも慣れってもらうようにしている。なかには、夕方になると家に帰りたいという入居者に、半年位かけて慣れてもらいながら今も全職員でケアに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの気持ちや生き方を尊敬、尊重するという理念に基づき、実際の関わりの中で、共に支えあえる関係づくりに留意している。戦争のテレビを見ながら、その頃の苦労話や怖かった体験話を職員に話してくれたり、お手玉の仕方、料理の味付けを教えてくれる等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中の言動や、声かけをしながらコミュニケーションを図り、希望や意向の把握をするようにしている。また、在宅時に担当だったケアマネージャーからの話、情報提供書も利用している。また、家族面会時には、家族からの話を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から本人の思いや気持ちを読み取り、状態の変化や問題点の把握に努めている。また、ケアカンファレンスや申し送り等で職員全員で話し合い、介護計画をケアマネージャーが作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度は見直しをしている。特に、退院後や介護度が変化した時、認知レベルが低下してきた時等は、職員、家族と話し合いをもち、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況その時々要望に応じて、対応している。お盆やお正月の家族との外泊・外出支援、出張美容サービスの利用、家族からの依頼による日用品の購入、緊急時の医療機関受診の対応、状況に応じて定期受診の対応等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や希望する医療機関を把握し、対応している。家族の同行ができない場合は、職員が同行し医師と話し、受診後家族に報告している。協力医とは24時間連絡がとれる体制になっていて、夜間の往診もしてくれる等適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的にはターミナルケアは行っていないが、本人、家族の希望があり、家族の協力、主治医の指示が得られれば対応する方針である。重度化については、ケアカンファレンスや月例会議等で、全職員が方針を共有している。重度化した場合は、家族、主治医の意見を聞き、全職員で検討し決めていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼び方は、本人の希望を聞いている。「ちゃん」という呼び方は、しないということを徹底している。トイレ誘導は、その人の排泄リズムを把握し、言葉かけをトイレということではなく部屋にいこうとか、ちょっといきましょうとかさりげない声かけ、誘導に努めている。居室への入室は、本人に確認してから開閉している。記録等は、鍵のかかるところに閉まっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは持っているが、起床や就寝の時間は本人まかせであり、食事の時間が遅くなってもとって置きその人のペースで過ごせるよう支援している。買い物や散歩にいく人、居室で休んでいる人、共有空間で職員と話をしている人等さまざまである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、朝と昼は入居者と食卓を囲んでいる。献立は、その日の担当職員2名が入居者の希望を聞いて立てている。食事は、きざみ、おかゆ、ミキサー食等入居者にあわせて対応している。入居者には、ちゃわん拭き、皮むき、すじとりなど、できることをしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は、週2回午前中になっている。失禁や汗をかいた時等必要に応じて随時対応している。また、入浴したい入居者は決まった日以外にも入浴できるよう支援している。1日3名が入浴予定で、個別に職員が見守りや介助を行い、30分位かけてゆっくり入浴してもらっている。また、入浴剤を使用し香りも楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントにより、一人ひとりの生活歴を知り、一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。テーブルを拭いたり、下膳の手伝いをしたり、お茶入れをしたり、食材の購入に一緒に行く等、力を活かせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の買い物への支援をしたり、季節感を味わうために季節毎の花見に出かけたり、近隣への散歩をしたり、外のベンチで外の新鮮な空気を吸う等、希望にそって支援している。年間行事計画では、外出行事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員個々の意識として、鍵をかけることによる弊害を理解している。鍵をかけないケアを実践しているが、入居者への対応や入浴介助中等見守りできない時には、安全を考え玄関にチャイムを設置しているが、鍵をかけることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。また、運営推進会議で、地域代表の方に協力を依頼している。役割分担、緊急連絡網、避難場所が決められ、管理者には24時間連絡できる体制がとれている。	○	運営推進会議で協力依頼はしているが、直接地域、隣組等を訪問し、協力をおねがいする等今後の働きかけを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりが、一日全体で栄養や水分がどの程度とれているのか、おおよその量を職員全員が常に意識している。量をチェックし、記録している。便秘の入居者には野菜ジュースを飲んでもらう等体調に合わせて飲み物をかえている。また、牛乳を配達してもらっている入居者がいたり、家族が牛乳を届けてくれる入居者がいる等、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドで太陽光の調整を行っており、広告で作ったゴミ箱、折り紙で作った桜や朝顔を飾ったり、季節の花を飾り、季節感が感じられる。畳の部屋の設置、廊下の長イスの設置等、外をながめたり、気の合った入居者同士で過ごせる空間づくりを行い、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居心地の良い共有空間を提供しているが、現状では畳の部屋に物がたくさん置いてあり利用できないので、利用の仕方を考え入居者の憩いの場所となるよう考えていくことを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の空調は、エアコンや窓を開閉し調節している。入居者は、使い慣れたダンスやイスを持ち込んでいる。コップ、箸、茶碗は、自分の好みのものを使用している。居室への持ち込みに制限はしておらず、ホームとしても家族に働きかけている。		